



2025年秋の読書週間

糸島市立図書館員おすすめの本

糸島市立図書館員が選んだおすすめの本を紹介しています。ぜひ、手に取ってご覧ください。

糸島市図書館本館 ☎092-321-1432

糸島市図書館二丈館 ☎092-332-2118

糸島市図書館志摩館 ☎092-332-2119

(<https://itoshima.libweb.jp>)

一般書

『あこのころの僕は』

小池 水音／著

集英社 2024.9 (FJ) 志摩館所蔵



五歳で母を亡くした天。母を亡くした子どもの毎日は忙しくて、四つの家（父、叔母、祖父母、祖母）を行き来している。そんな時にイギリスからやってきたさりかちゃん。天の日々はさりかちゃんと遊ぶ日と、そうではない日のシンプルな日々になったが…。読むうちに自分までなつかしさを感じ、一日一日がいとおしくなる本。

『かぞえきれない星の、その次の星』

重松 清／著

KADOKAWA 2021.9 (FJ) 二丈館所蔵



未知のウイルスへの恐怖から人との関わり方に変化が生まれ、私達が抱いた未来への不安。この作品はあの頃のどうしようもない感情を大きな手で包んでくれるようなお話達です。誰もが心に秘める「弱さ」と「優しさ」が子ども達の成長や親子の絆など身近な日常を切り取って描かれています。読み終えた時、希望を感じられる一冊です。



『待つ』
太宰 治／著 今井 キラ／絵
立東舎 2023.2 (Fダ) 本館所蔵

あなたは何を待ちますか？
友人？恋人？家族？はたまた、人ではない何か？
1人の女性がずっと待っている。何をかは分からないけれど、待っている。何を求めているのか分からないもどかしさが、今井キラ氏のイラストとともに描かれる。
今おかれてる状況から脱却したいという焦燥感。心がざわつく…あなたは何を待っていますか？



『富士山』
平野 啓一郎／著
新潮社 2024.10 (Ft) 志摩館所蔵

富士山に憧れがあり、手に取った。内容は自分の意とは、まったく違うものであった。それ故に面白く一気に読んでしまった。今まで経験してこなかった事ばかりだったからかもしれない。短篇集でそれぞれに一喜一憂した。「誰にでもありえる。でも、そんな事もあるんだ。」とこれからの人生楽しみになってきた。そして『ストレス』の連鎖を止められる自分になろうと思った。



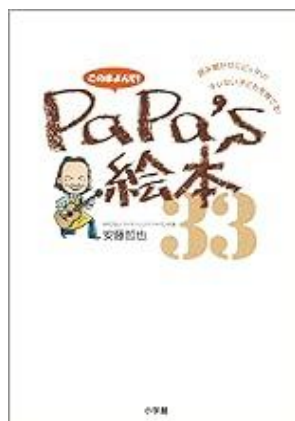
『派遣社員あすみの家計簿』
青木 祐子／著
小学館 2019.11 (BF7) 本館所蔵

婚約を機に退社したあすみだが、婚約者は姿を消し残されたのはカードの高額な支払いのみだった…。今まで節約とは無縁の生活を送っていたが、親友に叱咤激励され少しずつ前向きに節約生活に取り組むようになっていく。つい自分にご褒美を買ってしまう部分に共感しつつ、また家計簿を付けようと思わせてくれた1冊です。



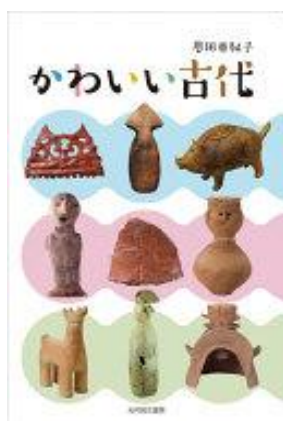
『愛の妖精』
 プチット・ファデット（改版）
 ジョルジュ・サンド／作 宮崎 嶺雄／訳
 岩波書店 2010.12 （B953.6サ） 本館所蔵

この本に出会ったのは小学生の時。自宅にある大人向けの本の、ふと目に留まった「妖精」という言葉。それに惹かれた。評判の悪い貧しい少女と、金持ちで評判のよい青年との愛の物語。少女の善良で叡智あふれる本質を見抜き、ゆるぎない愛を注ぐ青年を応援し、周囲がどんどん少女の魅力に気づき正当な評価をしていく様子に、自分のことのように喜びを感じた。出会ってかなりの年月が経ったが、今でもあの頃の感情をよく覚えている。



『この本よんで! PaPa's絵本33』
 読み聞かせにピッタリ！キレイな子どもを育てる！
 安藤 哲也／著
 小学館 2008.12 （019.5ア） 本館所蔵

子どもに絵本を読んであげたいけど、照れ臭い。それなら、好きな曲をBGMに流しながら読むのは、どうでしょう？この本は子どもと一緒に楽しめる絵本とBGMにぴったりなロックの名盤が紹介されています。自分が子どもの頃、絵本を読んでどんなことを感じていたか思い出しながら読み聞かせれば、きっと子どもと共感できるはず！



『かわいい古代』
 譽田 亜紀子／著
 光村推古書院 2021.7 （210.2J） 本館所蔵

生きるのに必死な時代、こんな美的感覚やユーモアを持ち合わせていたなんて！美しい土器に、ムササビ形埴輪のゆるキャラ的かわいさ。なんといっても、エースはわが福岡より出土したリーゼント埴輪！著者の愛に満ちたワードセンスも光ります。こんなミニチュアガチャがあったらな。古代人の魂の叫びが聞こえてくるようです。



『秘密の古代ギリシャ、あるいは古代魔術史』
藤村 シシン／著
KADOKAWA 2024.4 (2317) 本館所蔵

「魔術」と聞くと、うさんくさいと思ったり、空想的なものを思い浮かべるかもしれませんが。ですが、古代ギリシャでは「モテる魔法薬」に「ライバルを蹴落とす魔術」、「不眠を治す護符」など、割と身近なものだったようです。そんな様々な願いや欲望にまみれる古代ギリシャ人達のとっておきの秘密を、今からお見せしましょう。



『感動する地図帖』
世界って面白い!となる100テーマ
イアン・ライト／編著 Infographic.ly／図
片山 美佳子／訳 日経ナショナルジオグラフィック 2024.8
(2905) 本館所蔵

地図を見れば一目瞭然、世界がわかる！
社会的なものから、マニアックなものまで。例えば、マクドナルドのない国は。各国で輸出額が最も多い品目は。東京圏よりも人口の少ない国・地域は。人口10万人あたりのヘビーメタルバンドの数は。選挙の投票日は何曜日など。世界を色々な角度から知ることができます。



『台所探検家、地球の食卓を歩く』
岡根谷 実里／著
WAVE出版 2025.2 (383.8才) 二丈館所蔵

メニューが同じでも、味付けや材料が違うお隣さんのご飯は興味深いもの。ちょっと離れた土地だと知らない野菜や加工品があるし、外国だと食材が違うし、米やジャガイモも別物というほど違う。とはいえ、家族のための日々の食事や特別な日の御馳走の話には、ほっこりさせられる。国が違って人も同じという安心感と、好奇心が同時に満たされる本です。



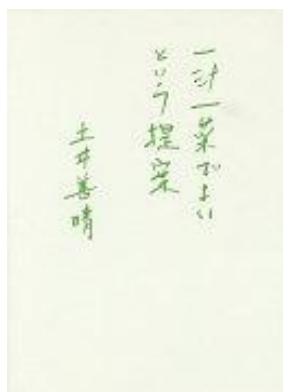
『世界は「関係」でできている』
美しくも過激な量子論
カルロ・ロヴェッリ／著 富永 星／訳
NHK出版 2021.10 (421.30) 本館所蔵

「量子論」とはミクロな世界で粒子や光がどのように動くかを解き明かす理論のこと。量子論で物事を見ると全ては関係でつながっているらしい。しかし私もあなたも”存在しない”。存在しないのにつながってるってどういうこと？と思ったらぜひこの本をおすすめします。物理学から哲学まで幅広い知識があなたを待っています。



『「幸福(しあわせ)のチョコレート」を探しにどこまでも』
木野内 美里／著
新潮社 2020.10 (588.34) 志摩館所蔵

著者は、チョコに人生を懸けた無名チョコレート職人を探して、紹介するチョコレートバイヤーという仕事をしています。世界中を巡り、「これぞ！」というチョコを探す様子が描かれており、仕事に対する愛が感じられる本です。旅をしている気分で、ワクワク楽しい時間を過ごしてみたいかがでしょうか。



『一汁一菜でよいという提案』
土井 善晴／著
グラフィック社 2016.10 (596ド)
本館・二丈館・志摩館所蔵

食の大切さにこだわりすぎて毎日の献立を考え料理を作ることに疲れていませんか？そんなあなたには土井善晴さんの美学が詰まったこの一冊をおすすめします。「和食の背景」「食の歴史」「贅と慎ましさ」などの土井マインドから生まれた「一汁一菜でよい」という提案は、あなたの心を軽くし、元気にしてくれることでしょう。



『一緒に生きる』親子の風景
東 直子／著 塩川 いづみ／画
福音館書店 2022.5 (599p) 志摩館所蔵

『いとこの森の家』の著者で作家、歌人でもある東直子さんが、ご自身の育児経験をもとに、日常の親子のやりとりを綴ったエッセイ集です。我が子を愛おしいと思う気持ちや、子どもから手が離れてやっと理解できた気持ちなど、優しい言葉で語りかけてくれるので子育てに奮闘中のお母さんも、読めば心穏やかになるに違いありません。



『路面電車で楽しむレトロな小旅行』
杉崎 行恭／執筆 坪内 政美／写真
東京ニュース通信社 2025.3 (686.9p) 本館所蔵

子どもの頃、路面電車に乗るのが大好きだった。博多どんたくの花電車はいつもデパートの屋上からながめていた。今も旅先で、路面電車には必ず乗ってみる。乗り間違えても、終点から折り返せば、必ず戻ってこれる。いつか、19路線制覇したいな。



『松永冠山展』
松永 冠山／画 松永冠山展実行委員会／編者
前原町 1988.10 (M721.9p) 本館・二丈館・志摩館所蔵

海、山、田畑、鳥、花、木々。松永冠山の筆から生まれた風景には、たおやかな風が吹いています。井原生まれ、加布里育ちの冠山が味わった不運、不遇はドラマ化できそうなほどに重く、苦しいものです。なのに、いやだからこそなのか、冠山の描いた世界には、そっと吹きかけるような優しい風が吹いています。図書館で文字だけでなく、絵も見つめてみませんか。

YA（中高生）



『あたたかな手』
 なのはな整骨院物語
 濱野 京子／著
 偕成社 2025.1（YF11） 本館所蔵

人に触れることが苦手だった春哉が、紆余曲折の後に選んだ職業は柔道整復師。なのはな整骨院には、近所の小学生ひかりに付き添われて体や心に痛みを抱える子どもがやってきます。患者が抱える痛みや苦しみを、優しく和らげていく地域密着型整骨院。きっと読者の心もやさしくほぐしてくれることでしょう。



『戦争は、』
 ジョゼ・ジョルジェ・レトリア／文 アンドレ・レトリア／絵
 木下 真穂／訳
 岩波書店 2024.4（YEL） 二文館所蔵

淡々とした言葉とシンプルで美しいイラストで描かれていながらも、戦争の恐ろしさを強く訴えてくる衝撃的な一冊。この本に物語はありません。「戦争は、物語を語れたことがない。」からです。今年で終戦80年。今もまだ世界で起きている悲しい現実を思いながら読んでみてください。あなたの考える「戦争は、」？



『ガラスの封筒と海と』
 アレックス・シアラー／著 金原 瑞人／訳
 西本 かおる／訳
 求龍堂 2017.6（Y933シ） 本館所蔵

心に傷を負った少年が、不思議な“ガラスの封筒”を通じて手紙を受け取ることで、自分自身と向き合い始める物語。届いた手紙は失ったものの意味と希望を教えてくれる。年齢を問わず、読む人の心にそっと寄り添ってくれる作品です。



『住所、不定』
スーザン・ニールセン／作 長友 恵子／訳
岩波書店 2022.06 (Y933ニ) 志摩館所蔵

職も家も失ったママと共に、キャンピングカーで暮らし始めた中学生のフィーリックス。トイレもお風呂もお金もない、ママの仕事も決まらない。親友にも打ち明けられず、長引く車上生活で心も体も限界に…。しかし、彼のあるチャレンジをきっかけに、事態は大きく動き始めます。希望に満ちるラストまで一気読み！大人も、ぜひ。



『僕らの未来が変わるお金と生き方の教室』
君が君らしく生きるために伝えておきたいこと
池上 彰／監修
Gakken 2023.3 (Y330ホ) 本館所蔵

未来を自分らしく切り拓くための「お金」と「生き方」の知識をマンガと図解でやさしく実践的に学べる一冊。情報に振り回されず、自分の価値観で選択する力を育てます。これから生きる新時代の教養としておすすめします。

児童書



『キダマッチ先生！』（シリーズ）
 今井 恭子／文 岡本 順／絵
 BL出版 2017.7 (9131) 本館・二丈館所蔵

カエルのキダマッチ先生は評判の名医です。次々やってくる個性的な患者とのやりとりも楽しいですが、毎回どうやって治療するのかという点も見ものです。物語を引き立てるのは繊細に描かれている味わいのある絵。ぜひじっくり見てほしいところです。さあ、次はどんな患者さんがくるでしょうか。先生の診療は続きます…。



『命のものさし』
 動物の命・人間の命・わたしの命
 今西 乃子／著、浜田 一男／写真
 愛媛県立とべ動物園／取材協力
 合同出版 2019.11 (4611) 本館所蔵

動物園・保健所・食肉検査場で働く獣医師が出会った命の物語。動物たちの「命」と向き合う獣医師の姿に心を打たれます。展示される命、食べられる命、捨てられる命—どれも重く、命の大切さを考えさせられます。普段私たちが目にしない場所にもスポットライトを当て、私たちに命をどう見つめるかを静かに問う一冊です。



『おしっこ、ヒル、頭にドリル』本当にあったトンデモナイちりょう
 クライブ・ギフォード／作 アン・ウィルソン／絵
 鈴木 真奈美／訳
 化学同人 2021.10 (490ジ) 本館所蔵

なんとも奇妙で魅力的なタイトル！
 これは読むしかないでしょう！
 この書では、古今東西のさまざまな治療法が紹介されています。
 おしっこやヒル、頭にドリル、うんち、ネズミ…
 今ではウソでしょという治療法ばかりだが、彼らの試行錯誤の上に
 今の医学があると痛感させられると同時に、もしかしたら試してみ
 たい治療法があるかも？

『もぐらはすごい』
アヤ井 アキコ／著 川田 伸一郎／監修
アリス館 2018.5 (E7) 本館・二丈館・志摩館所蔵



穴を掘っている途中で寝ちゃうところ。びっくりするほど大食漢なところ。そして「アイマー器官」という驚くべき優れた機能を持っているモグラ。土の中で暮らす彼らと、我々人間が遭遇する機会は滅多に無いけれど、こうしている今、私の足下にモグラが穴を掘り進めているかもしれないと想像するだけで、豊かで楽しい気持ちになる！



『山に登る』
星野 秀樹／写真・文
アリス館 2025.5 (E6) 二丈館所蔵

山頂に登りついた達成感を味わっても、ふたたび山に登ろうと思うのはなぜか。四季を感じる山の色、空気が伝わってくるたくさんの写真をみるとその理由がわかります。又、時には、冬の山や天候によって頂上をふませてくれない自然の厳しさもわかる写真絵本です。著者の「黒部の谷の小さな山小屋」（本館所蔵）もおすすめです。